

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

JAPAN

73
6628
14



地方允成錄卷之十三

下



門號 73
6628
卷 14



地方元成錄卷之十三

文政四年六月

○金子口入深牛ノ房佐平例

勝別山里人達寺住持

勅卷

卑川主事より者金子伊内ト岱山彦朝參殿曰向
高高ミナホト朝參執使文と高高加ナセアセ豆田
内山主事方ト岱山彦朝參殿名號アシヒト高相
國のト御旦日アト御ト東高主事ト御ト御ト御ト
高高ト岱山彦朝參殿名號アシヒト高相

中身

大連寺事令ハ後當故下付ト後ウリ退放ト身
儀の御事ナリアキルトアキルトアキルトアキルト
相手お處のトモ連取官分事

○西葉若川主事ハ岱山彦朝參殿名號アシヒト高相

力翁同姓村

孫左馬

世系表材用取引者中古文書並向不思議

主の相手の木村方の櫻井幸隆が名を立
て江戸から三川に移り居候る間は主に仕

形の武蔵守格で河津吉左衛門の如く

四九番

同上通中止文附付

○皇朝御外國使節折服の者四九番

上州吉野村

瓦賀

十左衛門

大正五年八月金子村長妻八加葉と妻の妹
施田の子と申す御子の半生不才房と子孫故
大正五年八月金子村長妻八加葉と妻の妹
施田の子と申す御子の半生不才房と子孫故
あり女里不才房と申す之の娘をあらか西御所
丸住ゆきゆきと申す長男故而居ては方より歩取山千
石金の海の度有る事無

四九番

可か根と通じ

○人妻の財金多め取事跡の者四九番

上州吉野村

北原三郎

柳原門

車 八

新本

布音と同村吉野及金子村妻八加葉と妻の妹
施田の子と申す御子の半生不才房と子孫故
大正五年八月金子村長妻八加葉と妻の妹
施田の子と申す御子の半生不才房と子孫故
あり女里不才房と申す之の娘をあらか西御所
丸住ゆきゆきと申す長男故而居ては方より歩取山千
石金の海の度有る事無

四九番

可か根と通じ

○怪談(文庫)四九番

上州吉野村吉野康

左川

比古の木方四四牛と申す村夫妻八加葉と妻の妹
施田の子と申す御子の半生不才房と子孫故
大正五年八月金子村長妻八加葉と妻の妹
施田の子と申す御子の半生不才房と子孫故
あり女里不才房と申す之の娘をあらか西御所
丸住ゆきゆきと申す長男故而居ては方より歩取山千
石金の海の度有る事無

支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元

人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

相州弘福寺

文書

聚萬

此支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

此支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

武州弘福寺

文書

聚萬

此支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

此支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

此支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

此支那の所に平成十一年に作せた事と底本の所元
人役山の名書とある所門主と主に於く

集す下付

序文

横河の事は元の事は水を退散す付の事

四ノ事

此處に世間より多湯等と號する所を以

治國の事

○慶保二年

歐陽宗胤溺死於水の仕事例

野別之村事

野別宿

野別宿

萬有萬門

忠

皆著古國國民川源由市日出入事へ帝ハ前々市を法
計御の御坐上御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御
御御御御御御御御
御御御御御御御
御御御御御御
御御御御御
御御御御
御御御
御御
御
御

山見事

山見事

國別之村事

野別之村事

万有萬門

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

○慶保二年

歐陽宗胤溺死於水の仕事例

○慶保二年

歐陽宗胤溺死於水の仕事例

國別之村事

七

此舉爲聖朝之急務也。故先帝不以耗費爲
病。故可持之。若年歲豐登。則民有余。則內
外安。則無外患。則可矣。

此舉爲聖朝之急務也。故先帝不以耗費爲
病。故可持之。若年歲豐登。則民有余。則內
外安。則無外患。則可矣。

臣愚意

可內視通

光保三年九月
奉入內庫至四月之始。北漢文祖之子

曰生平例

武訓需出村伊善陣

本官

改事南國。因金主之舊號。而方之曰化事。而
之令七郎。復以少卿高麗事。安和府。建政。而亦
與令西向。唐之金主。相對。有大後漢之風。而稱
唐化。漢文祖。平。詔。封。方。百。歲。治。通。而。萬。令
七。而。大。分。相。國。漢。金。主。唐。安。事。於。度。又。可。是。之
人。公。布。多。財。令。庭。漢。北。漢。主。極。吉。限。而。周。月
主。樂。放。下。材。子。有。向。

臣愚意

奉入內庫至四月之始

○同
○同
○同
○同
○同
○同

武訓需出村

名。伊善

比伊善。因村金主。建政。而方。小。美。不。善。地
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。

臣愚意

沒。歲。不。上。

奉入內庫至四月之始。則

武訓需出村

金藏

答。金藏。比。伊。善。而。建。政。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。
而。將。事。安。也。而。建。度。而。方。之。大。後。漢。文。祖。之。年。月。

勝手底ノ皆反毛被門傳者義春後漢延波而方
會あら連下候う。事多空傳未對此限の傳有被
次前方ト虫之化而乃上中井代令之傳波而方
信令也。辛日子後方付ひる中井

由鬼野

地名上中井代令無波而方波及手波

○脾外連海西波のと在波小號四任車制

武州昌原町

假太陽門

袋在兵牌筆事中町松井町庄所方の五社
西御主傳魚方ト魚市内傳高張外各祭記傳
而及ら本源平上源七社等と其小所此傳有他を以
是些事后付無傳下付ひる中井

由鬼野

中里段

○聖文年月

現代教序有國之傳大志布治の傳車制

野州 星野村

細戸村

因田 因田村

右集落村御多村中井上山川附多木村一因波先物不
有事原口年及の所收傳上馬之町村古所波模
川メ初半降善度と波右田村並ひりと多々安金村
人易山付事の筆載序有木内村も波名了向向
町の波名肥東古烟川更遠川歸如斯前而之
少直波知の付傳者有方別物江上四年支之利也未
左下中井の事傳者有方別物江上四年支之利也未
然不表双耳より生氣傳者有方別物江上四年支之利也
哉序中年一報大傳者有方別物江上四年支之利也未
之付者名を拂々追波中井馬場村細戸村森村ま
貴石金の有方別傳者有方別物江上四年支之利也未
金の有方別傳者有方別物江上四年支之利也未

右國中井書付

素井の傳者事一立初而裁作一品と用ひ
或二端ハ篠下中井波之元のゆゑに仕牛のり下付
三井の有方別傳者事一中井中井波中井
之を本氣を度志了於冬之傳者事一中井中井

半放の陽地あり及高處の溝を半裁件幅を定
立教小拂りて、河之支流のり二名を定め
而下村中多事ひ多處の溝地へ用意
西國風土合ひのく看經ト付另めりて拂之
耕ト付の事

本通印書付不以爲常故而有名至矣。有五科
捨更文弓付溝弓角主と拂の事。今凡て人
役聞の所は上程すり出付。又人文書皆無人是
かの爲馬拂細声付せて五科。三捨更文弓回町
即除草文弓付降し。又其後裁洋の毛庄を下溝す
ミハ經文より拂モ也。治園の事。

○食水年青
金中鳥取縣化山者と拂古陽一金の仕事

宇洲上大崎村

卫兵傍

丹生萬段田園上五野村造者甚方。御事之拂主を予
御事色の拂派庄主と相外の所。田園亭主村主拂
事主連事主の拂や。もよお事の拂派の而其事
あきそを主と拂ト安事の拂死難と拂の事。其事

圓小竹村地門主拂く。拂事甚方にて仕刑甚主の事
果因拂不いしもの變舟主溝弓角の事。同

山見事

重放の事。拂放

大意元年八月

○陽地兵刃年貢地來代妻長拂主の事例

穗列長坂村

久八

坐人儀文各蓋陽地水代。要復冬秋南附陽地三畝
步脚布弓角屋ノ付陽地主事上中追放弓角付

同村百姓廿二人

は者も祖父親代久八親翁蓋弓角陽地三爻主金
内少々拂主陽地水代。要復冬秋南附陽地三畝
步脚布弓角屋ノ付陽地主事上中追放弓角付

陽地主事上中追放弓角付

同四川口村四席蓋

○置蓋陽地水代。要復冬秋南附陽地三爻主金
内少々拂主陽地水代。要復冬秋南附陽地三畝
步脚布弓角屋ノ付陽地主事上中追放弓角付

同四川口村四席蓋

○置蓋陽地水代。要復冬秋南附陽地三爻主金
内少々拂主陽地水代。要復冬秋南附陽地三畝
步脚布弓角屋ノ付陽地主事上中追放弓角付

中事と實害不加不外と専之料子因縁と有る爲
家業傳承不外上毛科下村

田代家

西御奉申中遣放の足より是而御と之の如更
御及モ争ひ高島御事トモト一隊を力ひ加ル
シテ御身院等上毛高島御から御及モ祭
御軍事古相承代主を有する同様に成る爲
永代蒙之也毎年兩社坐祭之及る爲の事
松原元年八月○
巧の風流を五年義理と傳ひ者少佐重則

九野同明町

万石萬

此ノ萬門小早川平七代以降是不見御本氣御の如
キノ軍士貢の如小早川軍主御元英人仲名義長公爵
御子義道ハ三郎と捕平と八雲四郎虎徳と義政ハ
八郎と柳之助と加連と下ノ治と行加復久松
忠四郎延復の山彦と柳之助と八郎と捕の仕被出雲
御子彦と柳之助と一人のり、忠名御主御賀
行今也ア能の風俗中遣放下付り。中同共通火

佐藤不事

同年八月○
船入手を考と止居爲役多乞難利

清州佐野町

六本萬門

此ノ萬門役公後國守馬守信御物日陽之國守
ガ田下所領の御事而當事御内もて要其代官有り
而當事上居のみの時事と御出御名者御金五萬
由是御代官及之御内也御事御内又下有り同
四屋

村用事と而並びり左領十局事と大抵一席を
カ村役の御事と御内御内もて要其代官有り
由是御代官御事御内也御内也御内也御内也
不答御事御内也御内也御内也御内也御内也

右通少事御内也御内也御内也御内也御内也
也御内也御内也

○
同年八月西人加賛不者ノ同

明州佐野町

利根春

湯河原

此補當後亂事也。○國牛馬村印記在上而曰
中東村合議為人之如船の水若長高銀板甚も丈丈
半於馬と面見せむり又外乎舟形を有す
而名前り又うづ付ひる同

右向國印付書付

故我公則用之全數不前其事也より丈丈
佐音不量を限るゝを期すより丈丈を由る亂
乞之御の御者も有てて以是御船ひ並に乱ひ之
御上船のより報れあり丈丈を以是御船ひ並に
船と通ら御付今食即被濟四足而可疊舟を
御上船のより報れあり丈丈を以是御船ひ並に
御史改報事の御者も有て那と及ば
カシム免難與今奉人の報修を云歟と云之
御上船のより報れの狀はもあよ那と及ば
莫念故にヤハ取て御事ある程で改不者
モも下れ可也出事

右の事は一様と云ふ御事は其下程文書等の外要
出來て陽の仕合私事勤事となり又相處不可及

主事ひる御事は勿御許事下程文書等の外要
本司職事と首経不滿又近海者少在主事例
○人を殺自引と首経不滿又近海者少在主事例

右向國尾高村

合議金目要事

源七

伏願此派主水取回村合議と集士哥内庫の本向村
長高と御主下内庫御所の御承認收得の御事
御合議美会及御傳令為長高加賀長高銀
舟益浦へ人名お殿妻室大男と少男之絆
と耕田人也長高と首経不滿少供金主上詔度
の者と金主之妻の信承證聞亦即合議と易而水
車主と内庫の御承認回相手御事御事中止而上舟
傳正傳手記載不分明者正其事文免事の御事の
舟主為下内庫のと専向

出事

金意と繩手長高事主と長高と御手の水

御事のと妻室浦へあせ河原すそのと如

其事死絆と首経の御事と相手御事の御事の

軍犯あらゆりきをも遣放す下付とのいふ例

安永の事ノ月日解

改元二年七月
○忠通有りてより音自附との因由の例

御州吉海村

平成の房

聖母

者反平定居子傳八と書ひてはる平定居傳八
加羅府も孟肱の屬ゆけんと處安東軍連の外
平定居平定居を改めらむと傳也も高も居ゆ
有て、お出の府坐まし御代ト於テ押送す下付
ゆる事同

内省書 治通取

改元二年七月
○忠通有りてより音自附との因由の例

兵庫大蔵屋村

百足

久左衛門

喜四郎

孫七

源吉房

改元二年七月
○忠通有りてより音自附との因由の例

兵庫大蔵屋村
平成の房
聖母

忠通

此處舊依古列屋合高處由聚口築平九之村
名空見ト後多々本教會多と雨立樹立一之首
其上山巒固多高也而多水澗也則改而居
多因平地築成而蓋木屋宇而遷於下村

山向北通之作役事

寛保二年正月

○此處人多數多之者多也故曰度白川村

此處印仕車之例

武別山舊村
古文書家

吉祥寺

此處吉祥寺依圓圓岑并村塞舊凡未舊依圓圓
又意甲之吉使寺の御主後も又新御寺修
殿也中而之者多也而御主也而御主也而御主
既底酒食平事也者食酒之御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也

御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也
御主也而御主也而御主也而御主也而御主也

作役事

寛保二年八月

○高櫻木根室除あ多樂者有事不登高處多高處
財奉乃中也共通之作役事

同年三月

○一上利之沟（かとおとおとよのとおとよの）の狀每度

中住金之事

新別山開基

久左衛門
貞人房
志ゆん

此處天國間山高櫻木根室除處多樂者
限の所合事之上中追及之めへて右の所
Bをぐるる多高處多樂者有事不登高處多高處
財奉乃中也共通之作役事

同年三月

中住金之事

甲府越田村

金糞の房

金糞の房

金糞の房

金糞の房

筆者を以て金糞の房と互改せりかねまくえ
一と云ふ事は其の房の名をもてて通人、其の房
あ場の金糞の房と云ふ事よりは既成の表記也
定て下付を義書之記、云作成之事

嘉慶三年正月

○逃人虚偽の文書の印に立の例

力無國ゆき井村

四二

此番役員内考査行止ある事より御虚偽
の痕跡極めて多く是を御審査方と及ばず
眞隠又ハ某不三而乃ぞ放逐付の外御垂陽
画ち又文在監及新宿院とちうれニ而有
ゆうの變化傍米並に空居あり眞隠と表下

高井村より至る事令を以て眞隠と連行し逃査

村のする高と云居事人ありと御審査方付數
死瓶川口將御見逃人として別と御居官事

只海歩き走り更に空居事の事体と御見合事

ノ付即ち其通文 佐藤少華

四年

○逃人虚偽の文底付の事例 有平松

力無國ゆき井村

多々御見合

文在監

此文在監及虚偽の文と云ふ事に立て二而

瘡骨の如く付傳業明多々御見合虚偽の文と云

乃づふお立てて御見合事と面立てて空居の

寺の如く送合とす御見合事と多般立空居事と皆の

仕形の如き科條の事文御見合事と空居事と局の

あらぬ事と御見合事と御見合事と同モと又治成せ事

四年十月
○逃人虚偽の文底付の事例 有平松

は朝う因圓大官奉出國の事因村光四等方、
高家と史十日後、詔書を傳達の命令。大人おま
シ御圓殿に申せられ方光明及厚臣令まで御
少り出で立候て候。下さる事とおもふるあり
お便の事御の付添の高劉六追文支内事と
御手拂の如く此不とその大通集御六庭より之
大根から御手拂也。甚而下御事。舟車里御被
事の下御手拂御目拂は御事。再借限れ。ひ
お拂モ上京下御手拂事。御手拂御事。御船の
島令も外在の事御事。御事。御事。御事。

内次房 犬最

但頭空高公事内御事

但金三章年二月 諸候内

相の田主事

御別久家村

三席高

久家

本

筆者書御別久家村光四等事。因圓大官奉出國の事
信多の令。又御拂御事。御事。御事。御事。御事。
只管光明と申す御手拂御事。御事。御事。御事。
御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。
御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。
御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。

○機内御の者と御内御事

上源圓藏西村

前半次

此前半次御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。
御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。
御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。
御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。

× 宗派の事

○人報の事例のものとし取扱いの仕事

例

土佐國高葉村

唐三才

六月高葉村某姓伊藤某由本村主事及中本村の連
日村前半役利報の而ひ傳ひあつての安堵口
筋へ而ひ久押報のを付假へより是年半役と
ゆく在籍後至候の候品屋主は將進放下付
吉良其通之用の事

○西慶へ口傳へ上り既とお報の牒多加仕事例
同年七月

山中國吉田村

穂多吉善牌

良太郎

六月太郎役日四國吉田町主事吉善と本代秀、
代内所の役守及日善役主と付と吉若屋は
吉良其通不思議本屋の居るわざと吉内
者よりよ御多の成行先銀下付のと吉内
其通之用の事

○年十二月

吉良其通之用の事

上總國根室村五郎

地主

六地主は是圓住事多被徴の候地の主多井村役人
の利と被押毛上根室村源治等の五在の常吳源
翁入集は右のと同村役主源治翁見合と候
何方から來てひかねども貴重書れ奉不承故
金多倍三倍取れ立候よと儀金多倍取れ
ゆく候と安ヤ國うきとめ居止す化東島源
翁國一先も出事見り立候よと儀金多倍取れ
あ石の事す之へて人致候と歸らぬ事も申ゆ
候之處ゆくま國うきとめ居止す化東島源
翁國一先も出事見り立候よと儀金多倍取れ
日正月

○地主食事文首渡お墨の水拂ふあた多被

ゆくの事と云

西川喜門少司
農家院
吉善

此處食糞女さん本來のと傳来女も兄
妹の如のれ由是とおとて殺抱重以ふ色ミ申内
又付のうと立候きん中佐多野と者也
のあらぬのよ者や能前邊温血腰革、更除被
身の湯とおとせ金商通のとくゆ一高田路段有通
之者、赤果使きん等平年とお対死取少く
吟歌原取自がゆむ此使御の友きん向る所と
之者、赤果使きん等平年とお対死取少く
吟歌原取自がゆむ此使御の友きん向る所と
之者、赤果使きん等平年とお対死取少く
吟歌原取自がゆむ此使御の友きん向る所と
之者、赤果使きん等平年とお対死取少く
吟歌原取自がゆむ此使御の友きん向る所と

共通又作歌の事。

○一文の如く食糞女前邊中里のとくゆ一高田
用ひ仕事

芝原松樹

答食糞女

左

妻平

改長平改品川町行の者旅送食糞女食糞女食糞

口集内 やかま年越腰内 とまん首經
赤里と見在り 又遠支金下而和下水在
西一ト局改品川町行の者旅送食糞女食糞女食糞
腹に立て腰火達を少く多く而め物石作
少限事に名居月半放下付かく青面共通
又 作歌の事

○一文の如く食糞女前邊中里のとくゆ一高田
用ひ仕事

幸利中村

答食糞女

・云 海

今者其家年支未進方二月の後地取右而ゆ
因相兩上の小石既手中和村組改品川町行の者
アラシと波根の事の多く而め有く章糞
波糞 以度度へ近接末沟山色古糞用のと
右而立て腰火達下而形狀有く右
送根有く立て腰火達下而形狀有く右
白紙ド章糞 有形立押向多く上圓地灰

舟相守寺及半段の舟右事形と御室寺上巻
半章後不津文津山津判海の化メテ教
其度の延命の日村也三郎より妻として之
舟形と申しゆ人の仕業と云者蓋下御室と
子自らの運営と云及巧の限無くも船
頭通上船之寺苑の達有船トお居して至る
舟形を申す城と医者也才と黄底篷蓋に
中年半章主方の形故朱古限巧病。但取
此家より成る事有て舟内へ入るの上船先
魚ノ船舟主寺の死後一月の左因モ通以
佐局の事

○津山舟主城と申名は下村復の官職白紙上
御室の姓のゆゑの事也。例

書類中舟

忠良

此忠良萬國日村達左京方ト高帝因火船行
舟主寺舟主城と申名は下村復の官職白紙上
大舟主寺半段舟主寺と申舟右事形と御室上巻
書一舟内舟主寺と申舟右事形と御室上巻
舟右事形

○津山舟主城と申名は下村復の官職白紙上

御室中舟

忠良

忠良

忠良

忠良

此忠良萬國日村達左京方ト高帝因火船行
舟主寺舟主城と申名は下村復の官職白紙上
舟主寺半段舟主寺と申舟右事形と御室上巻
書一舟内舟主寺と申舟右事形と御室上巻
舟右事形

○津山舟主城と申名は下村復の官職白紙上

寛延二年六月

舟主寺舟主城と申名は下村復の官職白紙上

寛延二年六月

ゆきのひ仕事と例

伊別伊奇村

常吉

生年高及至翌年秋と云ふ事立田居方中
追放爲小役後退放被免て也ト御一品官可
候少而即爲多官改村方也云々至属次
光年夏疋半度無不亦恨アハ追高岡至
官高居女房門主不中他是内侍女房方も當
居の事浦ノ右昭半治居方也生田居小追
放逐一圓トテ原主退放事有りト夫向玉海

火船同事

○^{四年}女房津井事二月如數の者と奉

力能西田根井村

義三郎

或夜宿事いう乘與者ら無事附一物と高
坂車も有るが乗客多都川並中食はよる所
そく海の波萬葉山から西日月並に雲間の所屬
ゆりやかの山の山に登りて其處の風氣に取伏えりと
人うや分子と青

由佐家

いらは來舟一月のうちもいちらか難い事

わゆ火度萬そと云火船同事

○^{嘉慶丙午八月}村役人印

アラヘテモナヨリ富貴津之山の事

事

甲州守野八木門

火舟藍既而始ちて發送金と關の立名を止
人を送ル有く前此未だ少く人を御と云ふ事有
度又蓋弓居府慢追放事有りと甲府為善あ院

本局

ゆきのひ

聖治政

○^{四年九月}火舟と被荷事數件向まの石高ア聖

火舟あるゆきのひ事と例

奥州佛医村貢

其書

利三郎

筆の書常春文長元下様井村屋利三郎
勝東家の代長少下様と考る爲尼良重等
原御子やより及日暮の水屋有吉(文中幸)酒屋下
志山牛席田村利三下美食も之連吉田村酒屋
之翁酒と云ふも醉山田村酒下多氣の手澤若
島安初の酒と云ふ一興人喜善信利席石三郎利
舎下多氣のれ中り而思利舎古里る多氣の
死體と想めあと想分り而國衣の内委何事の石中り
五里下の石あつて舟を島めでより利席モ
達馬下舟めど中向

少佐

兵共達馬

○ち木三年馬通少家臣高國吉社奉仍上空

唐屋脚下

唐家

苗代

壽隨

和田院末

朝常

下條の事

一右海賊が其仕立をあらわす處で西へ左へ
東へ下りて左を源内の寺院等へおもむね
あらかじめは青右衛門の本丸の岸邊安門
少く沙斐の仕立がある下りとすなれば
右向ひ加乗せむ付御の上

月

支川五本

書立者安子高源海賊船の後をりて流
派船をりて水牛をひき利祝を南を盡
右はおもむすひを主事往ま行月章の量

前方とあ

○お水と年月
足取に通つたると見の付田山高田主

西園田安主ト云

大和の限不接列伊豆郡海田村者高家足利
者方と在る右主と見通す但丁年以降村す
多義は書る御養をめ者。主事右井足利
治世所の内通事御事の稱と毎を仕立すの御

去年六月吉日右近侍清原村下三面下りの事
近江守主義在すと方候安立扁の御居
内仕用のし有る久義、居下馬あど在る
御主と同主の夜之の事、主の仰り居の事
御主と相手の事足利公忠因竟元の事
産地か地と押角と服先と城らをうる行車の
ゆう足と不急の事下馬主と門放の事か
御主と抱ぬ事御主と御主と御主と御主
底付あらば、接主と主と主と主と主と
会のうれしき御主と御主と御主と御主と
是れ御主と御主と御主と御主と御主と御
主と御主と御主と御主と御主と御主と
御主と御主と御主と御主と御主と御主と
御主と御主と御主と御主と御主と御主と

書立

かね

舊す西行田銀鷲中名村本郷地松原山腰長者
ある日遙のむち立和土月八の村方より立向へか
松原山腰を西行田銀鷲中名村本郷地松原山腰長者
書くる也と入敷一山と本村根木浦へか
室にさびて下向へて所生一通り外のと見書や分テ
門面との多輪小舟を生す。波入音までと被有
あてて東北の水近と山側を海せ御内海
御見方あ爲へ上母と曰道る圓を量す。也
陽光向方の國病る門のちとぬい事の病氣者
西行田も下樓東野夷り長者良辰亂の多處
西行田もあらわに下春を高めとせと東の
前御城守有の往來と春更新と御了を
寺子有の方の御もとを道保えと御一百二十里
引て歩り御内河及川本西の城賞、病氣者
半も將氣の板舟もさと陸す。吉良若手年也
日也と改め船を在と車を乗じて御見下向一日も
後前令つて共通じゆきと同士の殿母御張

沙耶春直風と首と大根有馬本立向地を御下向
失地とよす。年少の御夜の舟の村賣ふと通
きしる事無此連はる事のと長く途下。然
お歌及陽合のひメ歌酒世吊の方宣ミトシ得
右路未だのを自伏仕加の今を者、立ち作
候て左岸年や又侍の御事才のひとみ自子
仕立下がれ右岸連風とその仕事と有馬御
左扇改風下がれ自立侍事と仕事仕事の
事才と事才の内下がれ自立侍事と仕事仕事の
事才と事才の内下がれ自立侍事と仕事仕事の

四月九日

仙石要教師

附記

周はやのまの事無事と御事の事の事
拂ててのり北馬越馬事御事御事御事御事御事
西行田銀鷲中名村本郷地松原山腰長者

辰ノ月

右作用人年下文年方客

貢

明早の希望文を以て此處に仕度

列傳

引早の帝 実は也ともぬあひと又抜身るぬあひ
改
あたる國人宣て第二而もゆもひを申す
建ま能背す方と能背す是又何處有能せら
附
先輩も只今の能背ま仕立方と足合ひ是
首脳の名荒魂らめりとすば満身をとて居る
ほよれゆふもぞころゑ

佛の御心を知る事無く
身の外に心を失はず
身の内に心を失はず
身の外に心を失はず
身の内に心を失はず

樂拂良乳又善以他乳之性化之
咲丸
第其效用之通於五味也

右後九、何子之、立畫
附九

THE HISTORY OF THE AMERICAN REVOLUTION

四九
音多の豊潤を優游する如く
ゆきゆきの事

はるかの昔の事なり

中房村、夜風吹拂、有る有りの立木にて金や骨
沙汰立ても、沙汰立ても、立木にて金や骨

西行の歌
下りの風
中村仕立屋

南の文兼足りんトモテ
西海見ゆ。宜む。

但當此之日，不寧居也。汝病氣急，死期不遠。汝子
而生女，不為汝子。汝死後，汝子與汝同穴。汝死後，
汝子與汝同穴。汝死後，汝子與汝同穴。

改
墨
者
之
為
寒
氣
之
所
起
也
而
猶
復
以
爲
其
爲
寒
氣
之
所
起
也

おれも落成の爲めに

仕童の未病のりを承る所

附札

仕童の未病丸の市原の令者承りあらは仕童
中筋の上筋を有すと病丸の名取はる
得難いよ骨の限の筋もとあると云ひゆ得
ひめ未仕事と承り久安吉田の御友が生れし
清原と及りも承りゆる

右通四合以上承上

九月

大同の生薑

仙人掌根傳承

武藏

別列養父郡中野村
由地快伊藤牌

長青島

在者他のも而て口止めを無病亂付甲へ
最末の内方五段と改相即り辰の事高麗の
貢とメ姓の路まお尾を供する門牛の正傳よ
りとよせ

辰四月

○天明の年一月
參道あまま三度至ると候之其事を仰應せ

延喜進照

玄七

同四回目印

陽信

店舗人方

从

度者四回回教直町下の御事無事御年四月
申まつて御事半度町下御事御事御事御事
申御事有事御事御事御事御事御事御事
右在モ上元十月吉日御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事

九月

延喜進照

事西少佐方而と通じて主に主事を兼ねる
が少佐在位に就きの上より主事の主事に及
ぶ也月銀給先ト同様手に押付ウシモ主事も

銀給もノ万兩成りは万兩の一萬兩の銀給を

山腰に置き三十日後申月三日を者ち主事も

中腰主事の主事不當主事九百兩の銀給を

中腰主事の主事不當主事九百兩の銀給を

○^{四年} 横事主教西少佐又ノ御寺社奉行掌治若ニ合

河内高野子源氏今高國勿村百姓市平澤伊波波

田村瀬多久家原平太郎市主又山主村百主家伊

波波多太郎市主の世主と並主石川又主の主と

少督波波平之藤平の主と伊波波又伊波多主

人と第日尾又太郎市主と蒲主と妻の主と

少督波波平之藤平の主と伊波波又伊波多主

太郎市主の主と伊波多主と蒲主と妻の主と

少督波波平之藤平の主と伊波波又伊波多主

太郎市主の主と伊波多主と蒲主と妻の主と

少督波波平之藤平の主と伊波波又伊波多主

太郎市主の主と伊波多主と蒲主と妻の主と

少督波波平之藤平の主と伊波波又伊波多主

太郎市主の主と伊波多主と蒲主と妻の主と

少督波波平之藤平の主と伊波波又伊波多主

太郎市主の主と伊波多主と蒲主と妻の主と

少督波波平之藤平の主と伊波波又伊波多主

太郎市主の主と伊波多主と蒲主と妻の主と

西寺主進原不

准別院御右衛門

太郎市

右者某年正月平島大高氏因成不復別
伊萬於平島府傳寫者大柿要在合併
山之舟長母の所ノ付号ノ右傳寫在不復合故
書院の佐太高ト御方ノ付号大柿在不復合故
實再貢書在同國日於南島村要事方勞有段
之左双方當付有之而此之傳寫者大柿
坐ト傳寫者再過此坐ト而此之傳寫者大柿
而此傳寫者方今ト有取去用の時白傳寫
者右也トある事内海より國の段ト此不復合
而此傳寫者再過此坐ト而此之傳寫者大柿
而此傳寫者再過此坐ト而此之傳寫者大柿
而此傳寫者再過此坐ト而此之傳寫者大柿
而此傳寫者再過此坐ト而此之傳寫者大柿
而此傳寫者再過此坐ト而此之傳寫者大柿

右者某年正月平島大高氏因成不復別

正月平島大高氏不復別平島府傳寫

之右也ト四波國攝那大高ト大國ノ布代合
の事ノ傳寫者大高ト改め御事大高ト
右也改御事大高ト改め御事大高ト改め御事
右也改御事大高ト改め御事大高ト改め御事
右也改御事大高ト改め御事大高ト改め御事

太高ト改めト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
内テ改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事

○正月平島大高氏因成不復別

正月平島大高氏因成不復別

正月平島大高氏因成不復別

天朝

辰辰吉

右天朝日村傳寫者大高氏因成不復別
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事
改め御事大高ト改め御事大高ト改め御事

附記
正月平島大高氏因成不復別

或ノ事例多ニ巧事内に於て天御神而祝

はる處又ト人ニ與テ有司御前ニリ被^ス御名

御也其處と考め得也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也

移於朽木村

利八

右利ハ故天御神而祝事より人とは殺害の事例

事のあれゆき御天御神止右御神事御也

事の西庭の限の所御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也

鎌安寺本尊

中守

二光院

右源氏天御神而祝事より人とは殺害の事例
事の御事御事御事御事御事御事御事御事

事の御事御事御事御事御事御事御事御事

中守御事御事御事御事御事御事御事御事

由ゆる罪科左御也御也御也御也御也

十月

大隅守右臣

○天保二年八月

乱の跡ノ御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

御也御也御也御也御也御也御也御也御也

松子月もと肉腰腹をすけ居る候月もとか
腹を食むのあめりては、腰腹に便りて
取立ひては、大切の事の為に候令ノ如く候
あ若の内は西近はてとんと分の御身を奉る候
かもと越床湯の奥と腰と肩と下腰の
魚並春月重慶食の候るがお魚屋の御身
も東一歳の後向井膳の御身を腰身の御身
お早うと右通らお早うの御身を腰身の御身
の上腰の御身ノ腰身の御身を腰身の御身
左腰の御身ノ腰身の御身を腰身の御身
歩もと腰の有る御身の御身を腰身の御身
身合はとて

八月九日

内裏度九月

多番源氏足教直腹凡て上等も親直左腹
も負も身を二日蒲袖を腰を食む腰身
御身の腰令ノ腰身もあ若の内が連はて及
ゆき直腹ト身共に通りて腰身の左腹も

教直腹[△]腰[△]卷身直教直腹[△]左腹[△]
期[△]右腰[△]化[△]右斗[△]事[△]も上取[△]腰[△]付[△]
山[△]右足[△]腰[△]之[△]腰[△]腰[△]腰[△]
右側[△]右[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]
秀[△]也[△]年[△]月
○[△]左腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]
足

内裏度九月

左腰

城[△]脚[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]
馬[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]
藏[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]
足[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]腰[△]

足

内裏度九月

戶帳付

政事萬門

右京[△]大市[△]と則合[△]右[△]も又[△]お[△]事[△]の御科[△]

鳥[△]鏡[△]と[△]合[△]可[△]可[△]

四[△]京[△]大市[△]政事[△]右[△]也[△]可[△]可[△]

腰[△]上町

布屋

上右戸門

右戸門直事の下連の事はもとより御用事に對する事

拂ひの有をもつて御の御めすり合ひ

内出西京島而拂ひ下連

仕事の事は事と多様の間を回相本を以て

也拂ふれの事と連絡の事と拂ふれ

以不關下連事付

吉澤

左右戸門

右戸門市有の下連七斗安とく及貴厚手

左者を拂ひ下連

内出西京島貴厚手の下連代令拂之申告

公酒行持

左拂ひ下連

馬の筋上

馬の筋上

馬の筋上

大生源名

右外戸門名を拂ひ是と申す因由南村保人

也事相手が改め役入と申す事は右門の事也

松島源助下連

○天明七年一月
右門の事は右門の下連の事と拂ひ奉事

伊藤當之答

三鷹屋金次郎

上野國足利郡久喜村

賀井文房

源八
木挽

右者五年久希在奉上連四鷹林の時少く
然や壁かど仕事分を拂ひ拂ひ事と高春中送
拂半身の事と申す事か以て也事と拂ひ不
審大何事す事や事の戸と拂ひ拂ひ事と拂ひ拂ひ
即ち唐衣只拂ひと拂ひ事と拂ひ拂ひ事と拂ひ
自用の拂ひ事と拂ひ拂ひ事と拂ひ拂ひ事と拂ひ
事と拂ひ拂ひ事と拂ひ拂ひ事と拂ひ拂ひ事と拂ひ

在木海人より其の名を取る木村姓の源は承久ノ
内ハ退院住のち御料糧又び上皇御食ト乃更分
拂ふ者より左庫セキシヤモリ也の御前も御孫中
有のものもあ昔の御院事の小乃と

松平冬馬御史

二月十九日

伊东刑八

内出西宮宮内少佐也者を御奉仕をもつて御
御門令官をめりて御内侍を御主と御御奉

○天明八年 委委仕主常御宿御不

仙洲英國那南陽村

白頭翁柴御

庄吉

中里陰風

右御内侍御宿御主に御内侍御宿御主
毛衣の御厚上衣御宿御主御内侍御宿御主
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御

西申御宿御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御

田村左近

庄屋家

次郎
中三郎

左御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御
毛衣御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御主御内侍御宿御

う日夜及毎晩のと吉高は又お酒を下酒膳
酒膳の席邊事は内附等もお軽重の月夜の御膳
普高下お庭のひだりはのふと自らを達方書ひ
正書の御戸内仰て仰て御手紙を御傳めるれども
送手こより御手紙を御戸内御手紙と御傳めのれども

本日又序陽一丸に度日良きは深き所惆ト御立
此本又序陽一丸に度日良きは深き所惆ト御立

山月氣候は良きの御手紙を御傳めのれども
お書の御手紙を御手紙を御傳めのれども
モモヤ書を御手紙を御傳めのれども
モモヤ書を御手紙を御傳めのれども

每晩御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳
御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳
御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳
御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳

御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳

御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳
御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳
御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳
御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳

右の通函事は度日良きの御膳事御膳事御膳事御

御膳事

吉高老布屋

張家齋

御膳

四月廿九日吉高老布屋事御膳事御膳事御膳事御

事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳

申月

四月

御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳

先達石川外連お前ひ御膳事御膳事御膳事御膳

因國鳥守　中高志　又高圓於村名山号寺等の御

書事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御

膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御

膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御

膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御

膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御膳事御

桂村山房

右件又 佐波山のたと

桂村山房の便り

和歌高市郎

佐波山房

伊東市地あざ家

金城寺外八ヶ院

三井寺通

内連院

高松園行

号寺玉勝院

法船

吉方共承 伊東市地あざわ桂村山房の便り
四月廿六日正月の事にて風雲者御前を告上
慶應之御と又名通ひの如きの御承の事
有のれ 伊東市地あざわ桂村山房子の五月
二日正月の事よりおまつと一寫及達もみ
まじて御承の事と申すとおこなひに
まじて御承の事と申すとおこなひに

御承の事と申すとおこなひに

正月の事と申すとおこなひに

桂村山房

右通の間の間の事と申すとおこなひに

中二月

同年
奉直門省名を即ち仕合而毎是奉り(同合)

萬慶等役分少徳目裏面取扱付名を文書置候
考官御用事の少徳入主廻年每古兩事の方
満事門支用の事の本五古年二年半事正使所
も内主事主年七月半事之代忠八世正使所
改め事ある事の甘南事等久病半參之主事
詔以西既代也の上既の外以忠主事者主事
浦郡町金鑑事ト因人於主事前事面事方中
間事主事主事事主事事主事事主事事主事
得事今少徳事事主事事主事事主事事主事
代事少徳事事主事事主事事主事事主事事
考五院士長事事主事事主事事主事事主事
永主事事主事事主事事主事事主事事主事
日事事主事事主事事主事事主事事主事事
事事主事事主事事主事事主事事主事事主

米津萬慶等事主

土月

小原家常

中書萬益監忠八波川直限事少徳事の假
の事以少徳事事主事事主事事主事事主事
少主事事主事事主事事主事事主事事主事
中书萬益監忠八波川直限事少徳事の假
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
中书萬益監忠八波川直限事少徳事の假
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事

あら見り少徳事事主事事主事事主事事主事

申二月

吉和年二月

○之第四段改物事主事事主事事主事事主事

元野州郡多良雲岩萬村

雲高序手書文

加献

奉主事年二月右近役事少徳事事主事事主
賤林事主事事主事事主事事主事事主事事主

右通事司事相見事内門令者有之。右通事
左通事次及外通事。左通事。右通事即委任
十年乃解。故為多。左通事者。自宋至宋。凡多解
何者。以入府州者。入州者。南归。今解。九
年。不日。北归。门令。多。之。左通事。南归。今解。九
何者。以入府州者。入州者。南归。今解。九
年。不日。北归。门令。多。之。左通事。南归。今解。九

右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。
右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。
右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。
右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。
右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。
右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。
右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。
右通事。多。右通事。多。右通事。多。右通事。

二月八日

通事三市

書。右通事。左通事。右通事。左通事。右通事。
右通事。左通事。右通事。左通事。右通事。
右通事。左通事。右通事。左通事。右通事。
右通事。左通事。右通事。左通事。右通事。
右通事。左通事。右通事。左通事。右通事。

右通事。左通事。右通事。左通事。右通事。

○軍板右。軍卷物。軍容答

軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。
軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。
軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。軍板。

四月八日

軍卷物。軍容答

軍卷物。軍容答

四月忠義

津田忠義

軍卷物。軍容答

勤捨三

右半書。右半書。右半書。右半書。右半書。
右半書。右半書。右半書。右半書。右半書。

右半書。右半書。右半書。右半書。右半書。

右半書。右半書。

右半書。右半書。

右半書。右半書。右半書。右半書。右半書。

右半書。右半書。

不善の多納の見事とあはれ此事件を記す
おもての事へ向ふ御見事と見事と向後平素の
者も見度に在る所をもやうが
右市中多事とあはせりゆかに御り付ての事度
多聞の上

高橋加賀守年譜

二月廿四日

西山丹波守

当面御試神野上喜盡安太守申高重の忠臣
角田泰盛あゆきほく足立吉田押出福之助
分吉盛吉義通安國令の席へあはれ殿が拂ひ
ゆき候の方をもあはれ候ち方の御事也

三月

○文化元年
三月翌日辰巳卯未の辰巳卯未

農市中腹に上毛國を陞移久留里市協村西原寺
トテ寺後下三月中夜の怪事都と云ふ事
萬人石井の名滴御御事の事以東信之守要成
前ノ成可空氣也今の思ひを及白川小江若狭
腹ある既より是年怪事ト有西伊豆守のよ

四月二十日
森 治次郎
附 九
是正陽寺中堂下立の事よりおもての所を
抑かへぬかへぬかへぬかへぬかへぬかへ
拂て候西原寺より御御事の事以てあり
以今之者とぞ上也取て候不あはれ候向方
人別にあらむとぞ上也取て候不あはれ候向方
十あれと云ひて拂ウタ有め善の所と詫ひ乃上

五月

○文化元年
五月食鹽の取扱いの者皆ハ根岸郡布施谷
若狭の腹に丹後國水上郡柳葉村河原佐保
沟の主食い者曰根三郎村山之源兵衛安國
曰めと而福智山下里城之門拂引奉を者
若狭の腹に者也是が安國の御事候者
更漏子の追拂一あはれの事古月たの会考
此來はる事向ひ

柳原町

陳七

此處事何取食事有此處事之於八京
主之者有者有假物也。在代役二十日其
事主。

此處事世有事上山主事柳原町事有
事主。

事主事事主事

・五三居

右事主事事主事事主事。事主事有於七日公
事主事事主事事主事。事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事

事主事事主事事主事事主事事主事事主事

回町
助助

右事主事事主事事主事。事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事

回町
正七

右事主事事主事事主事。事主事事主事事主事

是一セ活料市事主事。事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事
事主事事主事事主事事主事事主事事主事

右事主事事主事事主事事主事事主事

八月十日

回中大仲

橋迫君松吉居主

卷之二十一

目錄

卷之二十一

目錄

